

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4471100406
法人名	医療法人 千隆会
事業所名	グループホーム「たんぽぽの家」
訪問調査日	平成20年10月 8日
評価確定日	平成20年12月 2日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4 4 7 1 1 0 0 4 0 6
法人名	医療法人 千隆会
事業所名	グループホーム「たんぼぼの家」
所在地	宇佐市大字桶田45番地1 (電話) 0978-34-6886

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年10月8日	評価確定日	平成20年12月 2日

【情報提供票より】(平成20年9月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年10月4日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	11人, 非常勤 2人, 常勤換算 12.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	3,800 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	110 円	昼食	170 円
	夕食	170 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 500 円			

(4) 利用者の概要 (平成20年9月17日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1	4 名	要介護2	4 名			
要介護3	9 名	要介護4	0 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	85 歳	最低	68 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安心院整形外科医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 関連施設の2階にグループホームが2ユニットあり、明るい雰囲気の中で周りの景色が一望できる環境で過ごしている。
- 2 朝、昼、夕食はホーム内で作り、手伝える利用者と盛り付けを行い、常に温かい食事を食べている。
- 3 日々の生活はゆっくり、ゆったりを心がけ、排泄パターンを把握し、できるだけオムツ使用がない支援をモットーとしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回の評価については、改善シートを作成し、評価の意義は理解している。改善への取り組みは徐々にできているが評価を活かした取り組みが十分とは言えない、更なる工夫が望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	自己評価は全職員で取り組み、まとめは管理者が行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	推進会議の討議内容は事業所の取り組みについての報告、利用状況、外部評価についての報告を行い参加者より意見をもらっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	面会時に希望や意見を聞き、意見箱を設置し、家族への報告は「たんぼぼ」通信で毎月行い、年1回アンケート調査を行ったり等の努力は見えるが結果を分析し、運営に反映する事が望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	地域行事にはなるべく参加しているが、地域の老人会、婦人会活動もなく、地域住民との交流は難しく、子ども会やボランティアによる交流から関わっており今後の取り組みに期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は全職員で作成しているが地域密着型サービスとしての役割を目指した理念となっていない。	○	理念として家庭的な雰囲気を大切にし地域とのふれあいに取り組んでいるが地域住民との交流の下での方針を明示した理念が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に暗唱し、理念を活かし実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会、婦人会も解散し地域住民との交流も難しい。子供会やボランティアによる交流を行っている。	○	地域との関わりについては努力や工夫も見られるが今後の取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善計画シートを作成し改善への取り組みを行い、徐々に改善しているが十分とはいえない。自己評価票は全職員で記入し評価の意義は理解している。	○	改善計画シートはできているが、前回の外部評価結果が活かされていない。具体的な改善への取り組みが望まれる。
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の進め方として事業所の取り組みについての報告、利用者の入居状況、外部評価の報告を行い、参加者より意見をもらっているが積極的な参加となっていない。	○	会議の活性化に向けての工夫や取り組みが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政からの行事参加が少なく日程調整は行っているが、行き来する機会がない。基準等、不明なことは相談に行っている。	○	パンフレットや「たんぼぼ」通信を届けたり、市担当者との関係作りや、働きかけが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	グループホームでの暮らしぶりや職員紹介等、1ヶ月に1回は「たんぼぼ」通信で報告し、面会時に金銭出納帳を見てもらっている。また、遠方の家族にはハガキや手紙、電話で暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に要望や意見を聞き、年1回封書にてアンケート調査をしているが、結果を家族に報告していない。	○	意見箱を設置したりアンケート調査を行っているが結果を分析し運営に反映する事が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は基本的にはないが、ユニット内で行っている。全ての職員は顔馴染みであり、利用者へのダメージについては心配ない。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立て、できる限り参加をしている。受講後は勉強会で発表している。また、月1回は内部研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会に加入している。本年も他グループホームと相互訪問を行って職員の育成、サービスの向上に活かしている。また、他施設との勉強会も予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前は気軽に見学できる体制作りを行い、利用者に安心してもらえる雰囲気作りで、不安なく利用開始ができるような工夫をしているが、見学は利用者より家族の訪問が多い。また、利用開始前に自宅訪問をし環境づくりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	花を飾ることが好きな人には活かしてもらい、巻き寿司の得意な利用者からは、巻き方を習ったり、カラオケに興味がある人からは教えてもらいながら一緒に過ごし利用者のできることを引き出しながら支えあう関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	開設当時の利用者が半分くらいいるため、表情や動きから意向の把握はできている。意思疎通が困難な利用者は家族や知人から情報を得るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者、家族、利用者、主治医、看護師の意見を取り入れた利用者本位の介護計画書を計画作成担当者が話し合いの結果をまとめ作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者担当の職員が主になり家族、主治医と連携を取り定期的に見直しを行い、状態変化のある場合は随時の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者家族の要望に応じて通院や、付き添介助等、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は希望に沿って個別に対応し、訪問診療は健康面の配慮として事業所の方針で家族には了解を得ている。かかりつけ医との連携はできており緊急時に対応してもらえる関係作りはできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の方針は契約時に家族と話し合い、看取りに関する指針も具体的に作成している。職員は勉強会を行い受け入れ体制についての方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけ等でプライバシーを損ねることの無いよう職員相互で気をつけている。また、個人情報の取り扱いについては規定を作りプライバシーの確保に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の高齢化により、言葉に出せない時は声かけをし、1人ひとりのペースにあわせた支援をしている。(朝寝や、ゆっくりした食事)		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3度の食事はホーム内でユニット毎に作り、盛り付けはできる人が手伝っている。配膳、下膳もできる人は男性も一緒に行い、同じ食事を食べる職員、弁当持参の職員も楽しく利用者と共に食べ、家庭的な雰囲気である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、A棟、B棟交互に入っているが希望があれば、好きな時間に毎日でも入浴ができるようにしている。	○	就寝前の入浴も考えているが、まだ職員の都合になっており、浴槽の高さも気がかりであり、入りやすい工夫が求められる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボランティアの来訪により、大正琴をしたり、フラダンスを楽しんだり、巻き寿司をまいたり、餃子を包んだり等利用者の要望を聞きながら皆さんと楽しく過ごせる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調に合わせて、お菓子や、お茶を持って車で出かけている。車椅子利用者もできるだけ外出ができる支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員で鍵を掛けないケアに取り組んでおり、日中は玄関の施錠はしていない。また、居室もすべて鍵の使用はない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行い、災害に備えた備品のマニュアルを作成し、準備はできているが全職員が保管場所を確認しているとは言えない。	○	薬品の備え付け場所は確認できているが、食料品、飲料水等の保管場所が徹底されていない。また、災害時や訓練のとき地域住民の協力が得られるような働きかけが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が利用者の希望を取り入れた献立を作り、職員は1人ひとりの水分摂取量、残食等はチェック表を作り把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルには季節の花を飾りソファやテーブルで自由に居心地よく過ごしている。冬はおでんを作り職員と楽しく食べている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや、家族と撮った写真を飾り、時計や、仏壇を置いている利用者も居て、それぞれ個別に過ごしよい居室作りはできている。クローゼットやベットは同じものであり持ち込みの家具は見当たらない。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものであるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム「たんぼぼの家」
(ユニット名)	2ユニット(A棟)
所在地 (県・市町村名)	大分県宇佐市大字樋田45番地1
記入者名 (管理者)	曾我部 康子
記入日	平成20 年 9 月 12 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で作成したものである。地域密着型サービスとしての理念を作っています		
	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、ミーティングの時、意識づけるため、暗礁しています。	○	職員全員が日々の実践の中で取り組んでいけるように、勉強会等で意識づけを行っています
	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	たんぽぽ通信や、運営推進会議で伝えたり、ホールや玄関に掲示して、説明しています	○	折にふれ、説明しているようにはしています
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	あいさつは交わすが、回覧板もなく、きっかけがなかったが、行事等に招待していきたくとおもいます	○	行事や非難訓練についても、参加をよびかけたい
	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治委員に地域活動や、関わりについて聞いてみたが、婦人会、老人会も解散しているとのこと、子ども会に声かけたいと考えています	○	中学生がボランティアとしてきてくださる。「夏祭り」の行事のお手伝いをしていただきました。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>老人会、婦人会がないため会合にでることがない。何らかの形で協力したいとは思っている。人材育成の貢献として実習性やボランティアの受け入れは、積極的に行っている</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>職員に改善計画をたててもらい、話し合いで、できることからはじめた。ハード面では困難があるため、いかにソフト面を活かしていけばよいのか考えながら取り組んでいます</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>事業所の取り組み等を報告して、意見などいただいている。積極的に参加していただけるように働きかけ、また意見をいただいた時は、勉強会で話し合いをし、向上に努めています。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>忙しい為か、行政の参加が少ない、事前に日程については聞くようにしています。不明なことは、市に相談したりしています</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>勉強会や、研修等で職員は学んでいる。利用者の中に必要とする方がいたので活用することができました。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>虐待防止委員を設置し、勉強会で学んだり、マニュアルを作成し職員で周知しています</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金、医療連携や看取りに関する考え方など、重要事項説明書にそって、充分におこなっています。退去の場合も家族とともに話し合い相談して決めています	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人からゆっくりお話をきける場をつくり、何をしたいのか、何をたべたいか、どうしたいのか等聞いてケアに活かしています	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	遠方の家族の方には生活の様子や健康状態の報告を送付しています。たんぽぽ通信で職員紹介して送付し、金銭出納帳は明示して定期的に報告するようにしています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会にみえられたとき要望や意見などきいています。また、アンケート調査して、勉強会でとりあげ、反映させています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会などで職員の要望や意見を聞くように心がけています。日頃から意見を聞くようにしています	① できることと、できないことの見解はあるが、報告は常にしていきたいと思います。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	人員の確保はできている。利用者の状態やペースに合わせてローテーションを組んでいます	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は、基本的には行わない。日頃からユニット間を行き来している為、顔みしりの存在でいられます	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上に向けた育成のため個々に応じた研修計画をたて受講しています。受講後は全職員が研修で得た知識を共有できるように勉強会で発表して、閲覧して、また月1回の施設勉強会をしています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設との勉強会を開く予定にしているが日程は決まっていませんが、開く予定にしています。お互いのホームの視察を行ったりしています。良いところは活かしていています。	○ 全国グループホーム協議会の加入をしている。また、事例発表を行ったことで、いろんな意見をきくことができ、サービスの質の向上を目指していくことができ、機会があれば発表したいとおもいます
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	時間外勤務なし 休憩室の確保	○ 休憩室がほしいが、ハード面での環境が整っていないが、なんとかできるように働きかけたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	夏、冬期手当の支給や、給料アップによりやりがい目覚めたようです。年2回定期的に健康診断を実施しています	
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	必ず本人に会って話を聞きます。又ホームに遊びにきていただき雰囲気を見てもらったり、職員と会話しながら、信頼関係をつくるようにしています。いつでも遊びにこれるようにしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に家族の方と。事業所の運営方針やケアについては十分な時間をとって、信頼関係をつくるように努力しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できることとできないことを見極めてできるところから対応しています		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いつでもホームの見学が出来る体制をとっているので足を運んでいただき納得がいくまで待つこともあります		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	まき寿司の巻き方や、生け花を上手にいかたり、と、教えていただくことはたくさんあり、一緒にします。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方を、行事に招待をして、一緒に食事をさせていただくと利用者もうれしそうにされています。遠方の方にはハガキや手紙で近況報告するようにしています。とても喜ばれています		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	、利用者の側で、お話しできる雰囲気を作り、遠方の方には手紙を書いたり、電話したりしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙や年賀状は必ず返事は書いています。また、写真等も添付すると喜ばれています。継続できるように支援していきたいとおもいます		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	居室を行き来する光景がみられるときはお茶や菓子を持って一緒に過ごしていただきます		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	系列の施設入所の場合は頻回にしています	○	行事にきてもらうようにしていきたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での声かけ、しぐさ、表情、動きなどから意向などの把握に努めている。意思疎通が困難な方にはご家族から情報を得るようにして話しています		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や兄弟の方から、聞き取るようにしています。折りにふれ家族や本人から、どんな生活をしてきたか話の中で聞いていくようにしています		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活のリズムを把握し、できることと、できないことの見極めを把握しとくに、できることに着目しその人の全体の把握に努めています		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者担当職員の意見や家族、本人の意見を取り入れて話し合いを行い介護計画を作成している。作成後は全職員で確認して、家族の承諾をもらうようにしている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者担当職員を中心に定期的に見直しを行い、状態変化があったら随時検討し、見直しをおこなっています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきノートを作っているが職員によっては活用不足で記録になっていない。日々の記録が不十分な職員は、評価に結びつけるのに、困難をきたすことがあります	○	記録の書き方については、勉強会や研修で学んでいるが、研修会があれば参加して学びたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院などの付添いなど、柔軟な支援をしています		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ネットワークを広げるために警察に協力している。民生委員の存在は運営推進会議のメンバーなので全職員把握しています	○	ボランティアの協力で、琴やダンスなどきていただいている、一緒に歌ったり、踊ったりして楽しくすごしています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の意向をふくめ、必要があれば利用させてもらう方向にもっていくように、他のケアマネジャーと話し合いをしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーでもあり、信頼関係の構築をしています	○	きっかけに、情報交換、協力関係を築いていきたいとおもいます。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院はご本人やご家族の希望に応じて対応しています。訪問診療は週1~2回来ています。緊急の場合も医療機関と関係を密に結んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医や協力医を確保しているので必要性があれば、相談しながら支援しています		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	健康管理は毎日行い、医療の必要性があれば相談しながら、支援しています		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者と地域連携室の職員と情報交換し、連携は整っています		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについては、研修会に参加したり、勉強会をおこなっています。重度や終末期の指針は作成しています。医療連携体制のしたで、受け入れ体制はできています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	設備の問題、職員の力量 家族の意向など話し合い、医療連携、すべてを踏まえ対応していきたいとおもっています	○	職員の医療に対する知識のレベルアップに取り組みたい。家族、利用者、医療、スタッフが三位一体となったとき、看取りが可能とおもいます。検討していきたいとおもいます
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	状態提供を詳しく、本人の生活の様子を伝え、継続できるようにダメージを防いでいます		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応を心がけている。関わりの中でチェックするようにしています	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりが自分できめたことや、希望は大切にしています。食べたい物などがあれば、みんなで作ったりして、楽しんでいます	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて支援しているが、業務の流れを優先することはありません	○ 個別性のある支援をしていきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみのできない方には、支援の手伝いしている。職員の散髪で本人、家族も喜んでいました。行事の時は浴衣きて、化粧をしました。とても喜んでいました。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりから、食事時間、あとかたづけまで一緒に楽しく行っています	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの好みは把握しているが、一人ひとりの状況にあわせることがむずかしい面もあります。	○ 一人ひとり、楽しめるように配慮していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとり排泄パターンを把握しているので、声かけ、誘導をおこなっています。常に清潔の確保はしています。	○	できるだけオムツはしないが、モットーです
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、時間は決まっているが、希望すればどちらでも入浴できるようにしています	○	就寝前の入浴をしたいが、人員的に無理があるようにおもいますが、考えていきたいとおもいます
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は散歩、レク、コミュニケーションなど活動することになっている眠れないときは、お茶をのんだりしてゆっくりしていただき、休んでいただきます		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	団子を捏ねたり、餃子の種を皮に包んだり、まき寿司作りと利用者の要望を聞きながら、みんなで楽しくしています。今度はあれが食べたいといってきます。	○	温泉(黒川)に行きたいという方がいます。まずは、近くから始めたいとおもいます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をもって、買える人も職員がつい手を出してしまう	○	利用者の力量にあわせて、サイフをもたせ使っていただけるようにしていきたいとおもいます
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調をみながら花見につれていく。お菓子やお茶をもち、車で出かける、車いすを使用して出かけました	○	どうしても限られた方になるので、福祉用具を借りながら、戸外にでていくようにしていきたいです
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「温泉にはいってビール飲みたいね」といわれるが、いろんな問題があり実現にいたっていません	○	家族に相談したが協力がえられなかったのと、職員の問題などもあって実現するまでにはいたらなかったのですが、なんとか実現の方向で考えたいとおもいます

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	品物をいただいたときはお礼状か、電話をするように支援しています		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めているが、24時間対応してますのでいつでもおいでくださいと配慮しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを使って、勉強会したり、研修を通して職員は周知している。身体拘束委員をきめて行われていないか点検しています		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をしていません。居室は夜間もしていません。職員は鍵をかけていないということを、意識しています		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールの椅子に座っている方、ソファにいるかた、食事を手伝っているかた、常に見守りし安全確保しています		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意を要す物は職員室へ保管、包丁等危険なものを使うときは必ず職員とするようにしています		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対策委員会を作って防止に取り組んでいます。ヒヤリハットについては今後の予防策など全員で検討し記録して、閲覧しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命については年1回研修していただいている。勉強会などおこなっているため職員も周知している。マニュアルを作成しています		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルにそって年2回避難訓練をおこなっている。災害にそなえた物品などの準備をしています	○	地域の協力体制を構築していきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の方には、一人ひとりのリスクについては説明を行っている、特に転倒のリスクが高い方には、説明し理解をいただくようにしています		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルで状態観察はおこなっている。異常の早期発見に努め対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	シートにより把握できるようにしています。服薬の確認は必ず行っています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックをみながら、運動したり、水分補給に努め、牛乳やヨーグルトを飲んだりして対応しています		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後行い、一人ひとりに応じた歯みがきのお手伝いをしています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に献立にそって栄養バランスも考えている。水分量、残食量もチェックしています		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染に関する研修に参加したり対策委員を決め、マニュアルを作り、予防接種したり、ペーパータオルを使用し予防も徹底しています		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手指消毒、食器消毒も定期的実施しています。衛生面についての管理は十分に行っています。食材については、毎日の注文と買いものにより、新鮮かつ安全を保っています		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節にあった花を玄関に生けたり、1階の玄関周りには、花を作って季節感をだしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに、ソファをおいたり、テーブルの上には花を飾って季節感をだしています。冬はおでんをして職員とにぎやかにいただいています		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	夏はホールにゴザをしいて、ホールで寝転んでお話していることもあります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家族の方になじみの物をもってきていただくようにしています。カレンダーを飾ったり 時計をおいたりしています。	○	その人らしい個室作りを工夫していきたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷、暖房の温度調節はこまめにしている。一人ひとりにあわせて調節はこなっています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下など、手すりを設置しています。ベッドより、床で寝るほうが良いと言われる為、ベッドにしている利用者もいます。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	壁にシミガがあったら、錯覚をおこしたり、夜間電気が灯りすぎると火事だと騒ぐ為、電気の灯りの工夫をしたりしています		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターに花を作ったり、花壇に花を植え、草とりしたり、季節を味わっています。洗濯物干しに出かけて、花の様子を観察したり、日なたぼっこをしたりしています。		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

明るい雰囲気の中、ゆっくりゆったりとすごしていただき、オムツをしないですべて清潔に、安全に安心して生活ができるようなケアを目指しています

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム「たんぼぼの家」
(ユニット名)	2ユニット(B棟)
所在地 (県・市町村名)	大分県宇佐市大字樋田45番地1
記入者名 (管理者)	曾我部 康子(管理者) 松木 美智代(計画作成)
記入日	平成20 年 9 月 12 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で作成したものである。地域密着型サービスとしての理念を作っています		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、ミーティングの時、意識づけるため、暗唱しています。	○	職員全員が日々の実践の中で取り組んでいけるように、勉強会等で意識づけを行っています
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	たんぽぽ通信や、運営推進会議で伝えたり、ホールや玄関に掲示して、説明しています	○	折にふれ、説明しているようにはしています
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者様との散歩時や朝夕の挨拶を行い推進会議を通して地域の方との繋がりを深めています		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在地域に老人会は無いですとお聞きしましたがお世話したいや周りの草取りを通して交流に努めています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の学生に向けてのボランティアや実習生の受け入れも積極的に行っている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員全員で話し合い理解している評価に対しても職員一人ひとりの意見を取り入れ改善に取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年の評価を推進会議にて報告し地域の子供会と合同でもちつき大会など行いませんかと自治委員さんより意見を頂いています		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	忙しい為か、行政の参加が少ない、事前に日程については聞くようにしています。不明なことは、市に相談したりしています		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度に対して勉強会にて学びました又ご家族の方から申請をしたいのと言う申し入れがあり再度勉強会を行いました		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会において高齢者虐待防止法について理解浸透しているミーティングを行い遵守にむけ取り組んでいる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の様子を実際に見ていただき、利用者様ご家族様の意見を引き出せる様お話しをお聞きしたうえで十分説明しています		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	B棟では半数の方だ意思の疎通が困難になってはいますが出来るだけ全員の不満を聞き入れられるよう努力しています		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	施設内での出来事など月に一度の施設通信を通して報告しています又面会時や電話お便りにてお知らせしています		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置していますが家族からの意見を頂く事は難しく意見箱の位置を変えたり封書にてアンケートとして意見を頂いています		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会などで職員の要望や意見を聞くように心がけています。日頃から意見を聞くようにしています	○	できることと、できないことの意見はあるが、報告は常にしていきたいと思います。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	人員の確保はできている。利用者の状態やペースに合わせてローテーションを組んでいます		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は、基本的には行わない。日頃からユニット間を行き来している為、顔みしりの存在でいられます		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上に向けた育成のため個々に応じた研修計画をたて受講しています。受講後は全職員が研修で得た知識を共有できるように勉強会で発表して、閲覧して、また月1回の施設勉強会をしています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設との勉強会を開く予定にしているが日程は決まっていますが、開く予定にしています。お互いのホームの視察を行ったりしています。良いところは活かしていています。	○	全国グループホーム協議会の加入をしている。また、事例発表を行ったことで、いろんな意見をきくことができ、サービスの質の向上を目指していくことができ、機会があれば発表したいとおもいます
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	時間外勤務なし 休憩室の確保	○	休憩室がほしいが、ハード面での環境が整っていないが、なんとかできるように働きかけたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	夏、冬期手当の支給や、給料アップによりやりがい目覚めたようです。年2回定期的に健康診断を実施しています		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	理念にそって寄り添うケアをしながら話をきいてあげる		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	要望などききながら、グループホームのことをわかっていただけるようにお話している相談窓口を設置し気軽に相談していただけるように努力している相談は各管理者計画作成者が対応し統一した対応出来るよう努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時まず何が必要が見極めて家族の方に説明を行い納得していただけるようにお話している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームに遊びきていただいたり、家族の方とは本人にどう納得したらいいのか 入居に至るのか いろいろと工夫している。雰囲気などみてもらっている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	足腰が不安定になりホールにて一緒に茶碗拭きや洗濯物をたたんだり昔話や家族の話をし涙ぐまれることもありますカラオケを教えて戴いたりことわざや漢字を教えてください		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の度に近況をお知らせしこまった事は相談し一緒に解決しています。利用者様の昔の環境をお聞きして思い出療法に取り組んでいます		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方が見えられたときはご本人様とゆっくりお話しが出来る様な場作りを行い意志疎通の難しい方も間を取り持ちながら支援しています		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙が来た時は返事書くようにしている 写真なども添付すると大変喜んでいただき、面会時には本人様とのゆっくりした空間作りに努めている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ソファなどで利用者同士ゆっくりとお話したり服を着替えていると背中を下ろして上げたりエプロンの紐を結んで上げたりと自然な光景が見られます		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	出きる限り面会に行くようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床時間や食事時間などご本人の希望や意向を大切にしています また把握しにくい場合も見守りする事でご本人の希望をお聞きします		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後に家族、ご本人の会話の中でセンター方式を一部活用し把握している		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	バイタルチェックや生活レクリエーションを中心に一人ひとりの現状は 常に把握できている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に一回担当者会議を開き課題についての話し合い又日々の変化やケア変更に対してカンファレンスを行う御家族、主治医のNSの意見を反映しています		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月後とのアセスメントを踏まえて介護計画の見直しを行い本人の意思を尊重しながら又御家族主治医との連絡を取りながら現状把握計画の見直しを行っています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとに気づきノートやファイルを作成していますが日々の記録は出来ていますが気づきノートの活用方法を見直す必要があるようです		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況により医療連携をとり通院、送迎等を柔軟に対応している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	大正琴やダンス、地域の学生ボランティアの方の訪問や民生委員の方との協力を得ながら支援しています		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の意向をふくめ、必要があれば利用させてもらう方向にもっていくように、他のケアマネジャーと話し合いをしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーでもあり、信頼関係の構築をしていきたいとおもいます	○	きっかけに、情報交換、協力関係を築いていきたいとおもいます。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院はご本人やご家族の希望に応じて対応しています。訪問診療は週1～2回来ています。緊急の場合も医療機関と関係を密に結んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医や協力医を確保しているので必要性があれば、相談しながら支援しています		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	健康管理は毎日行い、医療の必要性があれば相談しながら、支援しています		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者と地域連携室の職員と情報交換し、連携は整っています		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについては、研修会に参加したり、勉強会をおこなっています。重度や終末期の指針は作成しています。医療連携体制のしたで、受け入れ体制はできています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	設備の問題、職員の力量 家族の意向など話し合い、医療連携、すべてを踏まえ対応していきたいとおもっています	○	職員の医療に対する知識のレベルアップに取り組みたい。家族、利用者、医療、スタッフが三位一体となったとき、看取りが可能とおもいます。検討していきたいとおもいます
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	状報提供を詳しく、本人の生活の様子を伝え、継続できるようにダメージを防いでいます		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	レベル低下が進み殆どの方に対して介助が必要になっていきます。さり気ない介助を心がけていますが事故防止の為オーバーになることがあります。言葉遣いも事あるごとに注意していますが、改善にいたっていません	○
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思表示の困難な方へも質問を完結にする事でハイ、イエで答えられる様に支援しています	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	以前は買い物や散歩に出かけていましたが『もうきつからほしい物を買ってきて』と職員に頼んでいるようです	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご自分で出来る方は室温に合わせて何度も着替えられています。髪も切ってほしいと要望にお答えしています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を作る際に利用者様の意見を聞き栄養士と話し合っ作っています。また調理や後片付けをホールの椅子に座って一緒に行っています	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒やタバコを吸われる方はいらっしゃいませんがおやつや飲み物などご家族にお願いして好きなものを用意していただいています	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ADLのレベル低下が進み夜間帯でのリハパンの使用はありますが昼間は極力布パンツを使用しトイレ誘導を速やかに行っています		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	A棟B棟交合に毎日入浴があります好きな時に好きな形で入浴していただいています		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとり起床時間や昼寝の時間など考慮し日当たりの良いソファにて休んでいただいたり居室にて体調を見ながら休んでいただけるよう支援しています		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	最近特にADLの低下が目立ち茶碗拭きや洗濯物たたみ等は体調やご気分を見ながら行っていただいています歌を唄うこと、声を出すことを中心に楽しみや気晴らしの支援をしています		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を持たれている方が一人いらっしゃいますが買い物に出掛ける事は体力的につらいようです。お金を出されて「～を買ってきて」と職員に頼んでいます。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調をみながら花見につれていく。お菓子やお茶をもち、車で出かける、車いすを使用して出かけました	○	どうしても限られた方になるので、福祉用具を借りながら、戸外にでていくようにしていきたいです
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	高齢者が多いので体調や気候を配慮しながらお花見や紅葉見学にお誘いしています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は手紙のお返事を書いていただいていたのですが日々字を書くことが困難になっている為いただいた手紙と一緒に読んでいます		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めているが、24時間対応してますのでいつでもおいでくださいと配慮しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを使って、勉強会したり、研修を通して職員は周知している。身体拘束委員をきめて行われていないか点検しています		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をしていません。居室は夜間もしていません。職員は鍵をかけていないということを、意識しています		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールの椅子に座っている方、ソファにいるかた、食事を手伝っているかた、常に見守りし安全確保しています		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意を要す物は職員室へ保管、包丁等危険なものを使うときは必ず職員とするようにしています		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対策委員を作って防止に取り組んでいます。ヒヤリハットについては今後の予防策など全員で検討し記録して、閲覧しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命については年1回研修していただいている。勉強会などおこなっているため職員も周知している。マニュアルを作成しています		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルにそって年2回避難訓練をおこなっている。災害にそなえた物品などの準備をしています	○	地域の協力体制を構築していきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の方には、一人ひとりのリスクについては説明を行っている、特に転倒のリスクが高い方には、説明し理解をいただくようにしています		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルで状態観察はおこなっている。異常の早期発見に努め対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	シートにより把握できるようにしています。服薬の確認は必ず行っています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックをみながら、運動したり、水分補給に努め、牛乳やヨーグルトを飲んだりして対応しています		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後行い、一人ひとりに応じた菌みがきのお手伝いをしています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に献立にそって栄養バランスも考えている。水分量、残食量もチェックしています		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染に関する研修に参加したり対策委員を決め、マニュアルを作り、予防接種したり、ペーパータオルを使用し予防も徹底しています		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手指消毒、食器消毒も定期的実施しています。衛生面についての管理は十分に行っています。食材については、毎日の注文と買いものにより、新鮮かつ安全を保っています		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節にあった花を玄関に生けたり、1階の玄関周りには、花を作って季節感をだしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに、ソファをおいたり、テーブルの上には花を飾って季節感をだしています。冬はおでんをして職員とにぎやかにいただいています		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	夏はホールにゴザをしいて、ホールで寝転んでお話ししていることもあります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家族の方になじみの物をもってきていただくようにしています。カレンダーを飾ったり 時計をおいたりしています。	○	その人らしい個室作りを工夫していきたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷、暖房の温度調節はこまめにしている。一人ひとりにあわせて調節はおこなっています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下など、手すりを設置しています。ベッドより、床で寝るほうが良いと言われる為、ベッドにしている利用者もいます。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	壁にシミガがあったら、錯覚をおこしたり、夜間電気が灯りすぎると火事だと騒ぐ為、電気の灯りの工夫をしたりしています		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターに花を作ったり、花壇に花を植え、草とりしたり、季節を味わっています。洗濯物干しに出かけて、花の様子を観察したり、日なたぼっこをしたりしています。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

明るい雰囲気の中かで、ゆっくりゆったりとすごしていただき、オムツをしないうも清潔に、安全に安心して生活ができるようなケアを目指しています